

ガスタード・バスアミド微粒剤について

令和3年4月
JA全農ちば 営農支援部

MITC（メチルイソチオシアネート）剤には、①ダゾメット剤（ガスタード・バスアミド）、②キルパー液剤、③トラペックサイド・ディトラペックス等があります。剤型は粒剤、液剤、油剤とありますが、土壌中では有効成分がMITCというガスに変化し、これが殺菌（殺線虫、殺草）効果を示します。

MITC剤の中で特にダゾメット剤は粒剤であり、臭いも少なく使いやすい薬剤です。ただ、ダゾメット剤は扱いやすい反面、その特性を理解していないと薬害、効果不足を招くこともあります。

◎ダゾメット剤の使用上の注意点

①土壌水分

有効成分は、水と反応して発生するガスによって防除効果を発揮しますので、土壌が乾燥している状態ではガス化せず、効果不足や薬害の原因ともなります。

処理はロータリーをかけた時に土壌表層から20cm位まで適度に水分があるのが理想的です。露地では降雨後、ハウスではたっぷり散水して、土壌水分が均一になってから処理します。

②処理時の気温

・15～20℃ 最適温度

十分な土壌水分があれば、ほぼ1日で分解し、発生したガスは数日間濃度を維持する。対象となる病害や雑草種子も活動適温なので、感受性が高い時期。（効果が高い時期）。この温度での処理から植付けまでは20日前後。

・15℃以下 分解、ガスの拡散とも遅くなる。

また、ガス抜きの効果も出にくい。処理から植付けまでは10℃前後で30～40日。10℃以下では60～70日程度必要。したがって、露地の冬季処理は難しい。

・25℃以上： 分解、ガスの拡散が早い、ガスの抜けも早い。

特に施設で夏場の太陽熱消毒を兼ねる場合等で処理される場面。温度により分解、ガスの拡散が早い、ガスの抜けも早いため、ビニール被覆は必ず行う。処理から植付けまでは14日前後。

③露地での作業工程 露地では、5月～10月（地温が確保できる時期）が使用適期。

作業の流れ

以下のように日数がかかりますので、事前時に作業スケジュールを確認し、余裕をもって行いましょう。

例) 地温が20℃前後の場合

降雨及び散水後 → 薬剤処理（ロータリー2回） → ビニール被覆 → 放置（14日間）
→ ガス抜き1回目 → 放置（7日間） → ガス抜き2回目（堆肥と兼ねる） 計約21日間